

祝・八峰町20歳を祝う会



8月14日、峰栄館で「八峰町20歳を祝う会」が行われ、対象者46名のうち40名が出席しました。



20歳の誓いでは、嶋田輝人さんが「SNSやAIに囲まれている今の時代だからこそ、家族や友人など大切な人と楽しく過ごすことを噛みしめて生きていきたい。変化を恐れず自分をアップデートし、矛盾にあふれる社会でも強くしなやかに生きていきたい。」と力強く決意を述べました。

式典では、中学校時代の恩師による点呼に続き、堀内町長が「自立した大人として、権利と責任を持ち、柔軟な発想と情熱で未来を切り拓きながら、周囲への感謝や友人との絆を力に社会を支えていくことを期待します。」と激励し、出席者代表の森楓太さんと工藤夕惟子さんに記念品が贈呈されました。

八峰中学校に移動して行われたホームルームでは、恩師や友人との思い出話に花を咲かせ、再会を喜び合いました。



八峰町 夏の風物詩

白瀑神社 例大祭

八峰町八森の白瀑神社の例大祭が8月1日に行われました。「みこしの滝浴び」を見ようと大勢の見物客が訪れ、白装束姿の男衆が激しい滝水を浴びながら五穀豊穡や海上安全などを祈願する勇壮な姿に、拍手が起りました。

同神社は853年に慈覚大師が開基したと伝えられ、「みこしの滝浴び」は、みこし渡御の際、あまりの暑さに男衆がみこしを担いだまま滝つぼに入ったことが始まりとされています。

この日は52名の男衆と町内の児童・生徒が参加しました。出発時は、あいにくの雨模様でしたが、男衆は「ワッセ、ワッセ」と威勢のいい掛け声を響かせて歩を進め、沿道では住民が一行を温かく迎えました。

みこしが神社に着く頃には雨は上がり、日が差し込みました。見物客やカメラマンが見守る中、男衆が滝つぼへ進み、みこしを上下に乱舞させると、熱気は最高潮に達しました。

